

戦争をしなければ

石垣市立真喜良小学校六年 星加 竜大朗

戦後生まれのぼくは本やテレビで勉強をし、また、この時期にある平和学習で平和祈念資料館へ行く事で、戦争を学んできました。でもまだまだぼくは戦争の事をよく知りません。

戦争って一体何だったんだろう。

ぼくはよくおじいさんやおばあさんに、

「平和な時代に生まれてきて良かったね。」

と、言われる事があるけれど、そもそも戦争の時代に生まれていないので、どういう事を「平和」と呼ぶのだろうと、心の中でずっと引っかかっています。

今が「平和」という時代ならば、七十四年前の戦争の時代に生きていた人達はどんな生活をおくっていたのだろうと考えました。

昨日まで両親がいて、皆でおいしいご飯を食べて、大好きなお母さんにだっこしてもらい、夜には家族で川の字になってねむっていたはずなのに。

明日になればその全てが消えてしまう。

これが現実だったというならば本当にこわすぎる出来事だ。

もしも戦争をしていなければ、どんな毎日があったのだろうか。

一人一人の毎日が楽しく幸せな日々だったと思う。

学校へ行き、色々な事を学び、すてきな大人になっていたのだろう。

今では当たり前の事が何ひとつ戦争中には出来なかったんだ。

何で戦争をしたのだろう。

何のために皆がつらく苦しんだのだろうか。

人が死に、家族を亡くし、楽しくもない日々におわれ、お腹をすかし、あれくるう毎日。

他に方法はなかったのだろうか。

せんたくしはいくらでもあったはずなのに……。平和な世界にするために大人達は何をしてくれたのだろうか。

そしてそのせんたくしは本当に正しかったのだろうか。

宗教や風習、性別や人種など関係なく、人が人として誰にでも相手を思いやるその気持ちさえあれば、平和な世界はきっと築く事が出来るのだと思います。

もし今、戦争をしている国があるならば、真っ先にこの言葉を伝えたい。

「戦争からは幸せは生まれません、喜ぶ人なんて誰一人いないんだ。」

ぼくは戦争とは何か、平和とは何かほんの少しだけわかった気がします。

「戦争」という言葉すら新聞やテレビなどで出てこない位、幸せな時代をこれから先築いていかなければいけないと思いました。

平成に生まれたぼくは戦争を経験していないし、昭和に生まれた両親だって戦争を経験していません。

だけど、この事は本当にあった出来事で、変えられない真実なのです。

戦争を経験してしまった人々は年をとり、だんだんと語りつぐ者がいなくなった今、ぼくが一ミリでも役に立てればいいと思いました。「平成」という戦争のない時代に

生まれ育ったぼくは、新しくなった「令和」という新時代に過去に起こってしまった全ての悲げきを語りつないでいくべきだと思っています。

六月二十三日には皆でもくとうし、亡くなってしまった人々へのくようと、これらの幸せな世界を願ひ、いのります。

全ての人々への平和をいのります。